



(株)井上マーク製作所
たつの市



代表取締役
井上 雅夫

設備貸与事業を活用して

- 積極的な設備投資で事業拡大
- ソフトウェアの投資にも活用
- 金融機関の融資は運転資金に



銘板製作からシール印刷まで 大手電機メーカーのニーズに応える

受注から翌日納品で信頼関係を築く

装置や機械の完成品には製造会社名や品名、品番、製造年月などを記載した金属製の銘板が貼られています。同社は井上雅夫社長の父で、親戚が営む銘板製作会社で働いていた満さんが会社の大阪移転を機に1959年、たつの市、姫路市周辺の手電機メーカーなどの得意先を引き継いで独立しました。

銘板は、ステンレスやアルミニウムなどの板を金型で切断した後、液体の酸に浸して文字の部分をはっきり浮かせ、塗料を付けることで出来上がります。当初の金属に加え、依頼に応じてアクリルやプラスチックの銘板も作るようになったほか、工場内で注意や警告、指示のために使う各種掲示物などにも拡大。現在ではシールやラベルの印刷も行っています。

営業担当者は毎日さまざまな機械を出荷している得意先を訪ね、銘板の注文を受けてから製造し、翌日に届けるというやり方を今も続けています。「事業所が近いので物流コストがかからず、直接コミュニケーションを取りながら、細かい注文にも応じています」と井上社長は話します。

40年来のヘビーユーザー

同社では1981年に設備貸与制度を初めて利用して以来、これまでに12回利用してきました。「大型の新しい設備を導入するには必ず利用しています。設備投資資金は制度で賄える分、金融機関からの借り入れ枠を運転資金に充てることができます。金利が低いこともとても助かっています」

昨年は、出荷情報や見積もり作成、納品・請求処理、図面管理などをオンライン上でやり取りできるソフトウェアを導入する際にも制度を活用しました。「機械などのハードだけでなくソフトウェアにも活用できるのか、ひょうご産業活性化センターに問い合わせたところ、『可能です』との返事を頂いたので導入を決断しました」と振り返ります。

企画からデザイン、設計、製造までワンストップで手がけられる強みを持ち、短納期や小ロット等さまざまな要望に対応すべく、スクリーン印刷機やインクジェット印刷機など機械への投資を積極的に続けてきた同社。特にステンレスの銘板製作については、将来を見越して「より正確で人手を介さずに印刷ができる」とインク

制度利用までの流れ

2022年2月

当センターへ申請。書類審査の後、現地調査を受ける

3月

設備貸与審議委員会での採択される

5月

契約締結。新規設備を検収

6月

返済スタート